



試験体の前で説明する広島工大清水教授②

高力ボルト

広島県鉄構工業会が見学会

すべり係数、広工大で実験

広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・スレントス社長）は31日、広島市内の広島工業大学で実験見学会を開催、約40人が参加した。実験テーマは「拡大孔亜鉛めっき高力ボルト

2面摩擦接合のすべり係数実験」。鋼材同士をつなぐのに使用する高力ボルトに腐食防止の亜鉛めっきを行うと、ボルト径が大きくなり作業性が低下する。その改善のためボルト穴

を広げることができないかを実験で確認した。実験は清水斉・広工大工学部建築工学科教授の指導で、ゼミの学生が実施。実験プレートの接合面である摩擦

面のすべりにくさを表す値「すべり係数」は0.4以上とされている。ボルト穴はボルト径プラス2mm以下と定められているが、大臣認定を取得することに

より例外で穴径を拡大する必要がある。実験によりボルト穴はプラス2mmやプラス3mmでもすべり係数は基準値である0.4を大幅に上回り、十分に条件を満たすことが確認された。

広島県鉄構工業会は中国地区の大学などと連携し、鉄骨の強度やレーザー穴開けなどの実験会や研究、データ収集を実施している。今回の実験は将来の現場での作業性向上を実現するためのもの。